

資源の有効利用 —日本の将来を担う次世代に 向けて—



平成28年11月12日（土）
倉敷市 奥田二三子



目次

- 自己紹介
- 視察・意見交換会に参加する前の意識
- 事前学習で印象に残ったこと
- 視察①「六ヶ所村 再処理工場他」
（日本原燃（株））でわかったこと
- 視察②「むつ市 リサイクル燃料備蓄センター」
（リサイクル燃料貯蔵（株））でわかったこと
- 核燃料サイクル立地地域（六ヶ所村、むつ市）の
皆さん他との意見交換で感じたこと
- 会場の皆さんにお伝えしたいこと

自己紹介

- 青森県六ヶ所村にある核燃料サイクル施設と青森県むつ市にあるリサイクル燃料備蓄センターに岡山県倉敷市から視察に行かせていただきました。視察に行く前は、友達や知り合いに参加することを話すことが出来ませんでした。言う、「あなたは、原子力に賛成なのね」と思われてしまうと感じていたからです。
- 今まで、常日頃、当たり前前に電気を使っていて、何も考えていませんでしたが、今回の視察等を機会に考えてみたいと参加しました。

視察・意見交換会に参加する前の意識

- 親戚が電気工事業で、省エネなどエネルギー問題には関心があった。
- 福島第一原子力発電所事故もあり、安全面で原子力の利用はどうなんだろうか。
- 原子力に賛成とか反対ではなく、現状がどうあるべきなのかを考えなくてはいけないのではないか。



事前学習で印象に残ったこと その1

- 日本のエネルギー自給率は、東日本大震災により、19.9%→6.2%に減少。エネルギー資源の約8割は中東から輸入されている。
- 原子力発電で使い終えた燃料は、再処理によりその約95%が再利用できる！
- 東日本大震災後、原子力発電所が停止した分の電力の多くを火力発電で代替えている。石油や石炭、天然ガスの輸入による費用は、1日100億円、年間3兆4,000億円かかっている。



事前学習で印象に残ったこと その2

- 電気を使うとゴミが出る！原子力発電所で使い終わった燃料を再処理すると、再び利用できる「ウラン・プルトニウム」の他に、「電気のごみ＝高レベル放射性廃棄物」が発生する。
- 核燃料サイクルすることによって、高レベル放射性廃棄物の体積を4分の1に減らしことができ、有害度が天然ウラン並になるまでの期間を約12分の1以下にすることができる。



視察①「六ヶ所村 再処理工場他」 (日本原燃(株)) でわかったこと

- 【再処理について】

原子力発電所で使われたウラン燃料の中には、まだ使えるウランと新しくできたプルトニウムがあり（約95%）、これらを再び原子力発電所で使えるように化学的な処理「再処理」をして、資源の乏しい日本で資源の有効活用を行う。



日本原燃(株)
再処理工場中央制御室前 見学者ギャラリーにて

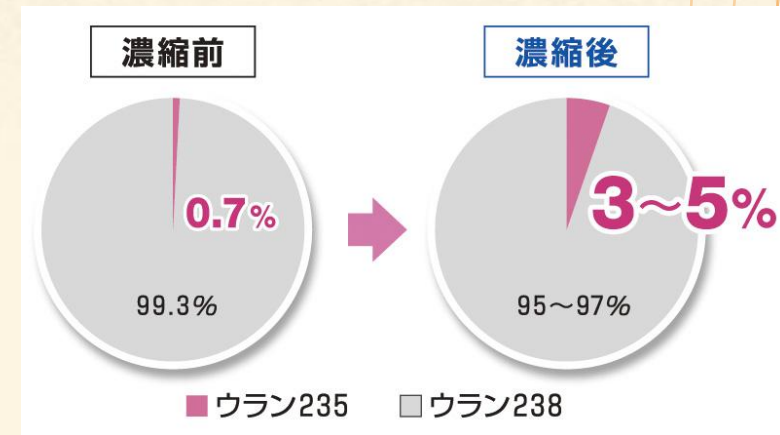
視察②「六ヶ所村 再処理工場他」（日本原燃（株））でわかったこと

【ウラン濃縮について】

- 天然のウラン鉱石には、核分裂しやすいウランは、0.7%しか含まれていない。ウラン濃縮することで核分裂しやすいウランの割合を3~5%にして原子力発電の燃料として使えるようにする。

【雇用について】

- 社員の地元採用割合が高い！
- 約60%が青森県出身者！



視察②「むつ市 リサイクル燃料備蓄センター」 (リサイクル燃料貯蔵(株)) でわかったこと

- 貯蔵期間は、施設ごと最大で50年間
- むつ市のリサイクル燃料備蓄センターで貯蔵するのは、東京電力と日本原電から発生する使用済燃料のみ
- 貯蔵期間中は、金属キャスクで使用済燃料をしっかりと閉じ込め、貯蔵建屋内および周辺の放射線量を測定し、異常がないことを常に監視

核燃料サイクル立地地域（六ヶ所村、むつ市）の 皆さん他との意見交換で感じたこと

- 核燃料サイクル施設の立地が決まり、現在に至るまでには、住民の方々も、放射線や原子力、核燃料サイクルについて、勉強会や話し合いを何度も積み重ねるなど、先人のものすごい苦勞と、事業者の方のきめ細やかな対応（六ヶ所村内全戸訪問、住民向け説明会など）があったことを初めて知りました。
- 六ヶ所村では、「むつ小川原開発計画」という六ヶ所村を中心とする青森県北東部の工業地帯整備計画が進められる前は、村民1万2,000人のうち8,000人が出稼ぎに行っていたとのこと。今では、核燃料サイクル産業を中心に、村内に雇用の場が創出され、教育や福祉など住民の生活が向上したこともわかりました。
- 新規基準に合格し、早期の稼働が期待されているリサイクル燃料備蓄センター、事業者と地元の方の信頼関係についてもわかりました。

会場の皆さんにお伝えしたいこと

- 電気を使う以上、私たちはもっともっとエネルギーや原子力について関心を持ち、知識を得ることが必要だと思えます。知識を身に付けることで、自分なりの理解・判断ができるようになると思えます。
- 電気のごみ、「高レベル放射性廃棄物は現在約1,700本（ガラス固化体換算）」貯蔵管理されています。その高レベル放射性廃棄物の処分地については、まだ決まっておらず、この最終処分の問題も、電気を使う私たちやこれからの世代に対して、避けては通れない問題だと思えます。
- 資源が少ない日本にとって、エネルギーを再利用できる核燃料サイクルは重要であり、原子力発電は安全性を大前提に、必要なエネルギー源の一つと思えます。太陽光や風力、地熱などの再生可能エネルギーも含めて、それぞれのメリット、デメリットを踏まえて、バランスがとれたエネルギー需給が必要だと思えます。